

デジタル保存プロに道

岐阜女子大の講座 アーキビスト資格条件に

岐阜女子大学(岐阜市)が、国内でいち早く専門コースを設けて養成を進める専門職「デジタル・アーキビスト」を資格として認定する統一基準ができた。同大のカリキュラムの受講が資格を得る条件になつていて、現在、同大の学生らが認定を目指して実習に取り組んでいる。知的財産権の保護意識の高まりなどから、アーキビストが必要とされる場面が今後、増えると考えられ、すでに企業から就職の誘いが来ているという。同大は高度な技術や知識を持つ人材の育成にさらに力を入れる考えだ。(木村俊介)

知的財産権の時代に需要

デジタル・アーキビスト 有形・無形の文化財をデジタル化し記録する技術の専門職。文化財の保護から記録したデータの流通

同大では99年から「デジタル・アーカイブズ」に関する講義を設け、国内ではいち早くアーキビストの養成に本格的に取り組んできた。昨年度からは社会人向けの公開講座も開設。資格取得を目指す人への門戸をさらに広げた。

デジタル・アーキビストをめぐるのは、これまで正式な資格の認定基準がなく、同大は独自に学内に「デジタル・アーキビスト資格委員会」を設けて、学内のカリキュラムを修了した小中高校の教員や図書館司書、学芸員など17人を「認定」してきた。

近年になって政府の中に公文書を保管、利用す

るうえでアーキビスト養成の重要性を訴える声が出てきたことなどを受け、今年7月からNP O法人「日本デジタル・アーキビスト資格認定機構(東京)」による認定が始まった。この17人も認定条件を満たしているとして認定機構から正式認定される見通しだ。

資格取得のためには、パソコンを使った情報処理のほか、記録のためのカメラ撮影法や録音法なども学ぶ。著作権やプライバシーなどの知的財産権についても知識を身につける必要がある。

資格の認定には、今のところ「メディアと著作権」「文化情報管理と流通」「プレゼンテーション」など同大での講座計34単位が必要になる。そのほぼ3分の2が実技演習で「ででん祭り」の様子をカメラで記録する学生(5月5日、郡上市白鳥町で、同大文化情報研究センター提供

るうえでアーキビスト養成の重要性を訴える声が出てきたことなどを受け、今年7月からNP O法人「日本デジタル・アーキビスト資格認定機構(東京)」による認定が始まった。この17人も認定条件を満たしているとして認定機構から正式認定される見通しだ。

「踊りや祭りなどの無形文化財はいったんなくなると復元しにくい」と指導にあたる同大の谷口知司教授。これまで郡上市の「郡上踊り」や同市白鳥町の長滝白山神社の「延年の舞」「ででん祭り」などを記録した。動きを明確に残そうと、角度を変えてビデオカメラの場合は4台、スチルカメラの場合は8台を使う記録方法を編み出した。インタビューで由来なども記録したという。

資格の認定には、今のところ「メディアと著作権」「文化情報管理と流通」「プレゼンテーション」など同大での講座計34単位が必要になる。そのほぼ3分の2が実技演習で「ででん祭り」の様子をカメラで記録する学生(5月5日、郡上市白鳥町で、同大文化情報研究センター提供

来春には新たに県外の2大学でも講座を開講し、養成が始まる予定だ。



実習で「ででん祭り」の様子をカメラで記録する学生(5月5日、郡上市白鳥町で、同大文化情報研究センター提供